# 完訳
# カルカッシ完全ギター教則本 Op.59
## ［原典版］

**監修：原　善 伸**
**翻訳：上谷直子**

新装版によせて

2019 年 3 月に「現代ギター」臨時増刊号として出版された『原典版：完訳カルカッシ完全ギター教則本 Op.59』が装いを新たに菊倍判の楽譜として再版されることとなりました。今まで各方面から多くの賛辞をいただきましたが、何人かの利用者からは、楽譜が小さくて見づらいとの意見もありました。私も常々それを感じており、いつか通常の楽譜サイズで再版できないものかと思っておりました。この度、ここに願いが叶い大変嬉しく思うとともに、旧版をご購入くださった方や、新版の出版を押し進めてくださった現代ギター編集部に篤くお礼申し上げます。

多くのギタリストやギター愛好家同様、私も「カルカッシ・ギター教則本」でギターを始め、指導する立場になってからも長く「カルカッシ」をメインテキストとして使ってきました。ただ従来日本で手に入る「カルカッシ」には、単純な校正ミスと思われるところがあったり、また古典音楽として不可解な和声に違和感を感じることもありました。そうした折、偶然手にした 1835 年パリで出版された初版復刻版は、納得のいく音遣いがなされていて、目から鱗が落ちたような思いでした。そして、これは世のギターを学びまた教える全ての人に知ってもらわなければとの思いで、強く現代ギター社に働きかけ臨時増刊号としての出版に至ったわけです。

また、本版の大きな特徴は、奏法や楽典の説明がカルカッシ自身の言葉による解説、つまり当時のギタリストの見識として読めることです。これは音楽史の資料としても大変貴重です。監修に際しては極力原典を尊重し、分かりにくい点や現代の奏法とは異なることに関して、その都度註を付けてあります。是非楽譜だけでなく本文や註もお読みになってください。

今回の新装版によって「カルカッシ」の本来の姿と素晴らしさがより多くの方々に伝わることを願っています。

2025 年 6 月　原 善伸

## はじめに

『カルカッシ・ギター教則本』（以下「カルカッシ」）はもう古いと言われます。「カルカッシ」は単調で退屈してしまうという声も聞きます。果たしてそうでしょうか？「カルカッシ」にはワルツ、マーチ、ギャロップ、ロンド、シシリエンヌ、カプリース、シャッス（狩の歌）など様々な曲種や、ロッシーニを始めとする人気オペラのアリアによる変奏曲、またホ長調変則調弦や、ハーモニクス、タンボーラ、ラスゲアードを駆使した曲など実に豊富な楽曲が収められています。それらの曲の特徴を捉え、実力にあった使い方をすれば、飽きるどころか興味深く西洋古典音楽を学ぶことが出来ます。また、指導者にとっては「カルカッシ」を丹念に教えることにより、ギターの技法だけでなくクラシック音楽の基本的な約束事を習得させることになるでしょう。

しかし実は、現在、我が国で市販されている「カルカッシ」にはかなり多くの間違い（単純な校訂ミスから歴代監修者による意図的な改変まで）があります。それらをカルカッシ本人が意図した本来の姿に戻し、日本語による完訳をつけて出版するという私の念願がようやく叶うこととなりました。日本における半世紀ぶりの新刊「カルカッシ」の誕生です。当初思っていたよりはるかに多い楽譜量、文字量と、煩雑な校訂作業でした。

企画時から出版まで何から何までお世話になった現代ギター社編集長の渡邊弘文氏、温められていた「カルカッシ」全訳を快くご提供頂き、再検討してくださったギタリストの上谷直子氏、校訂や浄書にお力をお貸しくださったウッドノート・スタジオの笹井慎二氏に心からお礼を申し上げます。そして何よりこの完訳・原典版『カルカッシ完全ギター教則本 Op.59』によってクラシックギター音楽の真の愛好家が増えれば、これに勝る喜びはありません。

2019 年 2 月
原 善伸

## 翻訳にあたって

文末にも記すように、私はただ翻訳という基本の作業をしたに過ぎず、一文を起こすほどのものではないとも思うが、基本資料の作成にあたって、それなりに指標としたことを簡単に記しておく。

翻訳に際し、まず心がけたことは、「わかりやすいこと」である。当たり前のことと思われるかもしれないが、翻訳というのはなかなか厄介なもので、学術書、文学、実用書といった性格の異なる書物を同じように訳すわけにはいかない。本増刊号では、日本ではいささか簡便な形で流布されてきた感のある『カルカッシ教則本』を、原典版に遡って改めて紹介し、カルカッシの意図や知られざる作品を見直すということが、当初の目的の一つであったと思う。原典を知るという目的のためには、精確に訳すということが重視されると思うが、精確な訳あるいは逐語訳は、時にわかりにくさにつながってしまう。しかし、教則本は実用書と言って良いと考えれば、やはり実践的わかりやすさも大切だ。そんなわけで、そのバランスにはなかなか苦労した。結果的には、どちらかと言えば「わかりやすさ」に重きを置いた訳になっていると思う。レッスンの場でも使えるようなものを目指した、と言っても良いかもしれない。

これまで手にすることができたカルカッシ教則本では省かれていた部分が多かったことは、すぐにわかっていただけるだろう。省いた意図については、レッスンの場にいる私も理解できるものの、カルカッシ自身はギターという楽器の深い理解を学習者に求めていたらしいということはちょっとした発見だった。ギターの奏法、ギター的な音楽の捉え方といった点で、演奏の容易さだけを求めず、音楽的に網羅して書こうという意欲がそこここに見えるのは、訳していて楽しかった。

また、ギターを弾くということの基本的実践における要点は、カルカッシの時代からさほど変わっていないという感も、強い。カルカッシは指頭奏法を推奨していたと思われる記述もあり、そういった点で現在主流である奏法といくらか違いはあるし、楽器も違う。が、西洋音楽の発展の中で、ギターをどのように使いこなしていくか、そういうことまでカルカッシはいろいろ考えていたように思う。

特に奏法について、現在との用語の違いは、少なからずあった。これは現代の楽譜でもときに見られる問題だが、現在日本で標準的に使われている用語に置き換え、必要と思われる箇所には訳註を記した。とはいえ、私の作業はごく基本的な翻訳にとどまり、その後様々な註や時代に即した細かな対応という厄介な作業を担当されたのは、監修の原 善伸氏および現代ギター社の方々で、そういった作業のおかげで、本書は実用に耐えるものになった。

ギター音楽、ギター奏法のその後の発展、現代における演奏技術の向上について考える上で、このカルカッシの意欲と努力は、今も顧みる価値があるだろう。そう考えると、このような翻訳作業の機会を与えてくれた現代ギター社の方々をはじめ関係諸氏には、感謝の気持ちを伝えたい。

2019 年 2 月
上谷直子

目次／ Contents


解説／カルカッシ～その作品と完全ギター教則本（原 善伸） …… 6
カルカッシ作品リスト …… 9

完全ギター教則本 …… 11
緒言 …… 12
基礎楽典 …… 13
音楽の基本原則 …… 13
音符の形と音価、休符 …… 14
小節 …… 15
スラー、タイ、シンコペーション …… 15
シャープ、フラット、ナチュラル …… 16
音程 …… 16
調と旋法 …… 16
音階 …… 16
略記法 …… 18
フェルマータ …… 18
反復記号 …… 18
表情記号 …… 18
イタリア語の速度表記の一例 …… 18

第 1 部　基本的奏法と基礎練習 …… 19
ギターの構造と調弦法 …… 20
ギターの構え方と手の位置 …… 20
左手 …… 20
右手 …… 20
弦のはじき方 …… 20
ギターの調弦法 …… 21
ポジション …… 22
和音とその弾き方 …… 23
セーハ …… 24
【予備レッスン】（1 声、2 ～ 6 音の和音を弾く練習） …… 25
【アルペジョ】（22 のアルペジョ練習） …… 27
【8 つのアルペジョ練習曲】 …… 30
【音階、カデンツ、練習、プレリュード】 …… 34
［ハ長調］ …… 34
［ト長調］ …… 36
［ニ長調］ …… 38
［イ長調］ …… 40
［ホ長調］ …… 42
［ヘ長調］ …… 44
［イ短調］ …… 46
［ホ短調］ …… 48
［ニ短調］ …… 49
［22 の練習課題］ …… 50

第 2 部　各種奏法と練習曲 …… 53
スラーとタイ …… 54

グリッサンドまたはポルタメント …… 57
前打音 …… 57
複前打音 …… 58
ターン …… 59
トリルまたはカデンツ …… 60
モルデント …… 61
消音 …… 61
ポジション …… 62
［4 ポジションの音階、音階練習、練習曲］ …… 62
［5 ポジションの音階、音階練習、練習曲］ …… 63
［7 ポジションの音階、音階練習、練習曲］ …… 64
［9 ポジションの音階、音階練習、練習曲］ …… 65
［ポジション移動を習得するための練習］ …… 66
重音 …… 70
［3 度の音階］ …… 70
［6 度の音階］ …… 70
［オクターヴの音階］ …… 71
［10 度の音階］ …… 71
［3 度の練習曲］ …… 72
［6 度の練習曲］ …… 72
［オクターヴの練習曲］ …… 73
［10 度の練習曲］ …… 73
［開放弦の声部が付いた 3 度・6 度・10 度のパッセージと練習曲］ …… 74
音階・カデンツ・練習課題・プレリュード（第 1 部で扱わなかった長調・短調での課題） …… 75
［ロ短調］ …… 75
［嬰ヘ短調］ …… 75
［嬰ハ短調］ …… 76
［ロ長調］ …… 77
［嬰ト短調］ …… 77
［嬰ヘ長調］ …… 78
［嬰ニ短調］ …… 79
［変ロ長調］ …… 80
［ト短調］ …… 80
［変ホ長調］ …… 81
［ハ短調］ …… 82
［変イ長調］ …… 82
［ヘ短調］ …… 83
［変ニ長調］ …… 84
［変ロ短調］ …… 84
ハーモニクス …… 86
［ハーモニクスの練習］ …… 86
［人工ハーモニクス］ …… 87

第 3 部　50 の漸進的な小品集 …… 89
No.1　**Andantino grazioso** …… 90
No.2　**Valz** …… 90
No.3　**Andante** …… 91
No.4　**Allegretto** …… 91

No.5 Valz 92
No.6 Allegretto 92
No.7 Valz 93
No.8 Allegretto 93
No.9 Andante 93
No.10 Valz 94
No.11 Moderato 94
No.12 Allegretto 95
No.13 Allegretto non troppo 95
No.14 Andantino 95
No.15 Valz 96
No.16 Caprice 96
No.17 Marche 97
No.18 Andante 97
No.19 Allegretto 98
No.20 Andante non troppo 98
No.21 Rondo Allegretto 99
No.22 Sicilienne 100
No.23 Moderato 100
No.24 Galop 101
No.25 Andantino grazioso 101
No.26 Valz 102
No.27 Marche 102
No.28 Larghetto 102
No.29 Rondo Allegretto 103
No.30 Chasse 104
No.31 Larghetto 104
No.32 Marche 105
No.33 Rondo Allegretto 106
No.34 Valz 106
No.35 Rondo 107
No.36 Valz 108
No.37 Larghetto 108
No.38 Chasse 108
No.39 Marche 110
No.40 Andantino grazioso 112
No.41 Air Italien 114
No.42 Air Suisse 116
No.43 Dernière pensée de Weber 118
No.44 Air Italien 120
No.45 Valz Favorite du Duc de Reichstadt 122
No.46 Valz 126
No.47 Galop 127
No.48 Marche 127
No.49 Valz a l'Espagnole 129
No.50 Galop 130

校訂報告 132